



## トラフィック モニタリング

---

- [トラフィック モニタリング \(1 ページ\)](#)
- [トラフィック モニタリングに関するガイドラインと推奨事項 \(4 ページ\)](#)
- [イーサネット トラフィック モニタリング セッションの作成 \(6 ページ\)](#)
- [ファイバチャネル トラフィック モニタリング セッションの作成 \(7 ページ\)](#)
- [モニタリング セッションへのトラフィック送信元の追加 \(9 ページ\)](#)
- [トラフィック モニタリング セッションのアクティブ化 \(14 ページ\)](#)
- [トラフィック モニタリング セッションの削除 \(15 ページ\)](#)
- [Cisco UCS Mini の SPAN に関する制約事項 \(16 ページ\)](#)

## トラフィック モニタリング

トラフィック モニタリングでは、1つまたは複数の送信元ポートからのトラフィックをコピーし、コピーされたトラフィックを分析用の専用宛先ポートに送信してネットワークアナライザに分析させます。この機能は、Switched Port Analyzer (SPAN) としても知られています。

### トラフィック モニタリング セッションの種類

モニタリング セッションが 2 種類あります。

- イーサネット
- ファイバチャネル

宛先ポートの種類により、どのようなモニタリングセッションを必要とするかが決まります。イーサネットのトラフィックモニタリングセッションの場合、宛先ポートは未設定の物理ポートであることが必要です。Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネクト、Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクトおよび 6300 ファブリック インターコネクトを使用している場合を除いて、ファイバチャネルのトラフィックモニタリングセッションの場合、宛先ポートはファイバチャネル アップリンクポートであることが必要です。



- (注) Cisco UCS 6332、6332-16UP、64108、6454 ファブリック インターコネクタについては、ファイバチャネル宛て先ポートを選択できません。宛先ポートは、未設定の物理イーサネットポートである必要があります。

### イーサネット全体のトラフィック モニタリング

イーサネット トラフィック モニタリング セッションでは、次のトラフィックの送信元ポートおよび宛先ポートのいずれかをモニタできます。

送信元ポート	宛先のポート
<ul style="list-style-type: none"> <li>• アップリンク イーサネット ポート</li> <li>• イーサネット ポート チャネル</li> <li>• VLAN</li> <li>• サービス プロファイル vNIC</li> <li>• サービス プロファイル vHBA</li> <li>• FCoE ポート</li> <li>• ポート チャネル</li> <li>• ユニファイド アップリンク ポート</li> <li>• VSAN</li> </ul>	未設定のイーサネット ポート



- (注) すべてのトラフィックの送信元は宛先ポートと同じスイッチ内にある必要があります。宛先ポートとして設定されたポートは、送信元ポートとして設定できません。ポートチャネルのメンバポートを個別に送信元として設定することはできません。ポートチャネルが送信元として設定されている場合、すべてのメンバポートが送信元ポートです。

サーバー ポートは、非仮想化ラックサーバー アダプタへのポートの場合にのみ送信元にすることができます。

### Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクタのトラフィックモニタリング

- Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクタは、宛て先ポートとしてのファイバチャネルポートをサポートしません。したがって、イーサネットポートは、このファブリック インターコネクタでトラフィック モニタリング セッションを設定するための唯一のオプションです。

- Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクต์では、ファブリック インターコネクต์ごとに2つ以上の送信元に対する送信方向のトラフィックのモニタリングをサポートします。
- 送信方向と受信方向のトラフィックについて、ポート チャネル送信元で SPAN をモニタまたは使用できます。
- 1 つのモニタ セッションの宛先ポートとしてポートを設定できます。
- 送信方向の送信元としてポート チャネルをモニタできます。
- 送信方向の送信元として vEth をモニタすることはできません。

### Cisco UCS 6300 ファブリック インターコネクットのトラフィック モニタリング

- Cisco UCS 6300 ファブリック インターコネクต์はポートベースのミラーリングをサポートしています。
- Cisco UCS 6300 ファブリック インターコネクต์は、VLAN SPAN を受信方向でのみサポートします。
- イーサネット SPAN は Cisco UCS 6300 ファブリック インターコネクต์に基づいたポートです。

### Cisco UCS 6200 ファブリック インターコネクットのトラフィック モニタリング

- Cisco UCS 6200 および 6324 ファブリック インターコネクต์では、ファブリック インターコネクต์ごとに最大2つの送信元で「送信」方向のモニタリングトラフィックがサポートされています。
- Cisco UCS 6200 では、SPAN トラフィックは SPAN 宛先ポートの速度によりレート制限されています。これは 1 Gbps または 10 Gbps のいずれかです。



**重要** (6200 および 6324 ファブリック インターコネクต์の場合) 入力トラフィック専用ポートチャネル上で SPAN の使用またはモニタができます。

### ファイバチャネル全体のトラフィック モニタリング

ファイバチャネルトラフィックアナライザまたはイーサネットトラフィックアナライザを使用して、ファイバチャネルトラフィックをモニタできます。ファイバチャネルトラフィックが、イーサネット宛先ポートでイーサネットトラフィックモニタリングセッションでモニタされる場合、宛先トラフィックは FCoE になります。Cisco UCS 6300 ファブリック インターコネクต์は、FC SPAN を、入力側でのみサポートします。Cisco UCS 6248 ファブリック インターコネクต์のファイバチャネルポートは送信元ポートとして設定できません。

ファイバチャネルトラフィックモニタリングセッションでは、次のトラフィックの送信元ポートおよび宛先ポートのいずれかをモニタできます。

送信元ポート	宛先のポート
<ul style="list-style-type: none"> <li>• FC ポート</li> <li>• FCポートチャネル</li> <li>• アップリンク ファイバチャネル ポート</li> <li>• SAN ポート チャネル</li> <li>• VSAN</li> <li>• サービス プロファイル vHBA</li> <li>• ファイバチャネルストレージ ポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイバチャネル アップリンク ポート</li> <li>• 未構成のイーサネット ポート (Cisco UCS 64108、6454、6332、および 6332-16UP ファブリック インターコネクト)</li> </ul>

## トラフィック モニタリングに関するガイドラインと推奨事項

トラフィック モニタリングを設定するか、アクティブにする場合は、次のガイドラインを考慮してください。

### トラフィックモニタリングセッション

トラフィック モニタリング セッションは作成時にはデフォルトでディセーブルです。トラフィック モニタリングを開始するには、まずセッションをアクティブにします。トラフィック モニタリングセッションは、Cisco UCSポッド内のどのファブリック インターコネクトでも固有である必要があります。一意の名前と一意の VLAN ソースを使用して各モニタリングセッションを作成します。サーバからのトラフィックを監視するには、サーバに対応するサービス プロファイルからすべての vNIC を追加します。



(注) 1つの SPAN モニタリング セッションに追加できる VLAN は 32 までです。

### ファブリック インターコネクトごとにサポートされるアクティブ トラフィック モニタリングセッションの最大数

トラフィック モニタリングセッションは最大 16 まで作成し保存できますが、同時にアクティブにできるのは 4 つだけです。各 Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクトおよび 6300 ファブリック インターコネクトについては、最大 4 個のトラフィック方向のみをモニタできます。受信および送信方向は、それぞれ 1 モニタリングセッションとしてカウントされます。一方、双方向モニタリングセッションは、2 モニタリングセッションとしてカウントされます。次に例を示します。

- 4つのアクティブセッション：各セッションが1方向だけでトラフィックをモニタするように設定されている場合。
- 2アクティブセッション：各セッションが双方向のトラフィックをモニタリングするように設定されている場合。
- 3アクティブセッション：1つのセッションが単方向で、もう1つのセッションが双方向の場合。



(注)    トラフィック モニタリングは、システム リソースにかなりの負荷をかけることがあります。負荷を最小限にするには、不要なトラフィックができるだけ少ない送信元を選択し、不要なときにはトラフィック モニタリングをディセーブルにします。

### vNIC

トラフィック モニタリングの宛先は単一の物理ポートであるため、トラフィック モニタリングセッションは1つのファブリックだけを監視できます。ファブリック フェールオーバーにわたって中断されないvNICトラフィックをモニタリングするには、ファブリックごとに1つ、合計2つのセッションを作成し、2台のアナライザを接続します。両方のセッションでまったく同じ名前を使用して、トラフィックの送信元としてvNICを追加します。仮想コンピュータのポートプロファイルを変更すると、送信元ポートとして使用されている、関連付けられたvNICはモニタリングから削除され、モニタリングセッションを再設定する必要があります。トラフィック モニタリングセッションがCisco UCS Manager リリース 2.0 より前のリリースのもとでダイナミックvNICで設定された場合、アップグレード後にトラフィック モニタリングセッションを再設定する必要があります。Cisco UCS 6200 は、送信方向でのvNICからのトラフィック モニタリングをサポートします。Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクトは、送信方向でvNICからのトラフィックモニタリングトラフィックをサポートしていません。

### vHBA

vHBA はイーサネットまたはファイバチャネルのどちらのモニタリングセッションの送信元としても設定できますが、同時に両方の送信元とすることはできません。vHBAがSPAN送信元として設定されている場合、SPAN宛先は、VNタグが付いたフレームのみを受信します。これは、直接FCフレームを受信しません。Cisco UCS 6200 では、送信方向vHBAからのトラフィック モニタリングをサポートします。Cisco UCS 6400 シリーズ ファブリック インターコネクトは、送信方向vHBAからのトラフィックモニタリングトラフィックをサポートしていません。

# イーサネット トラフィック モニタリング セッションの作成



(注) この手順では、イーサネット トラフィックのモニタリングセッションを作成する方法について説明します。ファイバチャネル トラフィックのモニタリングセッションを作成するには、次の変更が必要になります。

- ステップ 1 で、**scope fc-traffic-mon** コマンドを **scope eth-traffic-mon** コマンドの代わりに入力します。
- ステップ 3 で、**create fc-mon-session** コマンドを **create eth-mon-session** コマンドの代わりに入力します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope eth-traffic-mon</b>	イーサネット トラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-traffic-mon # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定したファブリックのトラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # <b>create eth-mon-session session-name</b>	指定した名前で、トラフィック モニタリング セッションを作成します。
ステップ 4	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session # <b>create dest-interface slot-num port-num</b>	トラフィック モニタリングセッションのモニタリング先とするために指定したスロットとポート番号でインターフェイスを設定します。そのインターフェイスでコマンドモードを開始します。
ステップ 5	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session/dest-interface # <b>set speedadmin-speed</b>	モニタされるポート チャネルのデータ転送速度 を設定します。ここに表示される値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1gbps : 1 Gbps</li> <li>• 10gbps : 10 Gbps</li> <li>• 20gbps : 20 Gbps</li> <li>• 40gbps : 40 Gbps</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session/dest-interface # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、イーサネット トラフィック モニタリングセッションを作成してトラフィックをスロット 2、ポート 12 の宛先ポートにコピーおよび転送し、管理速度を 20 Gbps に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-traffic-mon
UCS-A /eth-traffic-mon # scope fabric a
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # create eth-mon-session EthMonitor33
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session* # create dest-interface 2 12
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session/dest-interface* # set speed 20gbps
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session/dest-interface* # commit-buffer
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session/dest-interface #
```

### 次のタスク

- トラフィック モニタリングセッションにトラフィック ソースを追加します。
- トラフィック モニタリングセッションをアクティブ化します。

## ファイバチャネルトラフィック モニタリング セッションの作成

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope fc-traffic-mon</b>	ファイバチャネルトラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-traffic-mon # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定したファブリックのファイバチャネルトラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-traffic-mon/fabric # <b>create fc-mon-session session-name</b>	指定した名前で、ファイバチャネルトラフィック モニタリングセッションを作成します。
ステップ 4	UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session # <b>create dest-interface slot-num port-num</b>	ファイバチャネルトラフィック モニタリングセッションのモニタリング先ス

	コマンドまたはアクション	目的
		ロットおよびポートのコマンド モードを作成してそのモードを開始します。
ステップ 5	UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session/dest-interface # <b>set speedadmin-speed</b>	モニタされるポート チャネルのデータ転送速度を設定します。ここに表示される値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1gbps : 1 Gbps</li> <li>• 2gbps : 2 Gbps</li> <li>• 4gbps : 4 Gbps</li> <li>• 8gbps : 8 Gbps</li> <li>• 自動 : Cisco UCSがデータ転送速度を決定します。</li> </ul>
ステップ 6	UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session/dest-interface # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、ファイバチャネル トラフィック モニタリング セッションを作成してトラフィックをスロット 1、ポート 10 の宛先ポートにコピーおよび転送し、管理速度を 8 Gbps に設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-traffic-mon
UCS-A /fc-traffic-mon # scope fabric a
UCS-A /fc-traffic-mon/fabric # create fc-mon-session FCMonitor
UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session* # create dest-interface 1 10
UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session/dest-interface* # set speed 8gbps
UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session/dest-interface* # commit-buffer
UCS-A /fc-traffic-mon/fabric/fc-mon-session/dest-interface #
```

### 次のタスク

- トラフィック モニタリング セッションにトラフィック ソースを追加します。
- トラフィック モニタリング セッションをアクティブ化します。



# モニタリングセッションへのトラフィック送信元の追加

## モニタリングセッションへのアップリンク ソース ポートの追加



(注) この手順は、トラフィック モニタリングセッションのソースとしてイーサネット アップリンク ポートを追加する方法について説明します。ソースとしてファイバチャネル アップリンク ポートを追加するには、ステップ 1 で **scope eth-uplink** コマンドの代わりに **scope fc-uplink** コマンドを入力します。

### 始める前に

トラフィック モニタリングセッションが作成されている必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope eth-uplink</b>	イーサネット アップリンク コマンド モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定されたファブリックのアップリンク ファブリック モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-uplink/fabric # <b>scope interface slot-num port-num</b>	指定されたアップリンク ポートのインターフェイス コマンド モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /eth-uplink/fabric/interface # <b>create mon-src session-name</b>	指定されたモニタリングセッションのソースとしてアップリンク ポートを追加します。
ステップ 5	(任意) UCS-A /eth-uplink/fabric/interface/mon-src # <b>set direction {both   receive   transmit}</b>	モニタするトラフィックの方向を指定します。  (注) 方向を選択しない場合、デフォルトの方向はRxです。
ステップ 6	UCS-A /eth-uplink/fabric/interface/mon-src # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、モニタリングセッションのソースとしてファブリック A のスロット 2 のイーサネットアップリンクポート 3 への入力トラフィックを追加し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink # scope fabric a
UCS-A /eth-uplink/fabric # scope interface 2 3
UCS-A /eth-uplink/fabric/interface # create mon-src Monitor23
UCS-A /eth-uplink/fabric/interface/mon-src* # set direction receive
UCS-A /eth-uplink/fabric/interface/mon-src* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink/fabric/interface/mon-src #
```

## 次のタスク

トラフィック モニタリングセッションにはさらにソースを追加できます。

## モニタリングセッションへの vNIC または vHBA 発信元の追加



- (注) この手順では、トラフィック モニタリングセッションのソースとして vNIC を追加する方法について説明します。ソースとして vHBA を追加するには、ステップ 2 で **scope vnic** コマンドの代わりに **scope vhba** コマンドを入力します。

## 始める前に

トラフィック モニタリングセッションが作成されている必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Switch-A# <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 2	Switch-A /system # <b>scope vm-mgmt</b>	VM 管理モードを開始します。
ステップ 3	(任意) Switch-A /system/vm-mgmt # <b>show virtual-machine</b>	実行中の仮想マシンを表示します。
ステップ 4	Switch-A /system/vm-mgmt # <b>scope virtual-machine uuid</b>	ダイナミック vNIC を含む仮想マシンのコマンド モードを開始します。
ステップ 5	(任意) Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine # <b>show expand</b>	vNIC の MAC アドレスを含む仮想マシンの詳細が表示されます。
ステップ 6	Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine # <b>scope vnic mac-address</b>	指定した MAC アドレスの vNIC コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic # <b>create mon-src session-name</b>	指定されたモニタリングセッションのソースとして vNIC を追加します。
ステップ 8	(任意) Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic/mon-src # <b>set direction {both   receive   transmit}</b>	モニタするトラフィックの方向を指定します。
ステップ 9	Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic/mon-src # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、モニタセッションのソースとしてダイナミック vNIC 上の入力トラフィックを追加し、トランザクションをコミットします。

```
Switch-A# scope system
Switch-A /system # scope vm-mgmt
Switch-A /system/vm-mgmt # show virtual-machine
Virtual Machine:
    UUID: 42327c42-e00c-886f-e3f7-e615906f51e9
    Service Profile: org-root/ls-dsw-bld1-esx
    Server: sys/chassis-1/blade-1
    Status: Online
.
.
.
Switch-A /system/vm-mgmt # scope virtual-machine 42327c42-e00c-886f-e3f7-e615906f51e9
Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine # show expand
Virtual Machine:
    UUID: 42327c42-e00c-886f-e3f7-e615906f51e9
    Service Profile: org-root/ls-dsw-bld1-esx
    Server: sys/chassis-1/blade-1
    Status: Online

    vNIC:
        Name:
        Status: Online
        MAC Address: 00:50:56:B2:00:00

    VIF:
        Vif Id: 32772
        Status: Online
        Phys Fabric ID: B
        Virtual Fabric:
Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine # scope vnic 00:50:56:B2:00:00
Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic # create mon-src Monitor23
Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic/mon-src* # set direction receive
Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic/mon-src* # commit-buffer

Switch-A /system/vm-mgmt/virtual-machine/vnic/mon-src #
```

## 次のタスク

トラフィック モニタリング セッションにはさらにソースを追加できます。

## モニタリング セッションへの VLAN または VSAN 発信元の追加



(注) この手順は、トラフィック モニタリング セッションのソースとして VLAN を追加する方法について説明します。ソースとして VSAN を追加するには、次の変更が必要です。

- ステップ 1 で、**scope fc-uplink** コマンドを **scope eth-uplink** コマンドの代わりに入力します。
- ステップ 3 で、**create vsan** コマンドを **create vlan** コマンドの代わりに入力します。

### 始める前に

トラフィック モニタリング セッションが作成されている必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope eth-uplink</b>	イーサネット アップリンク コマンド モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-uplink # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定されたファブリックのアップリンク ファブリック モードを開始します。  (注) ローカル VLAN をソースとして追加する場合、この手順は必須です。ソースとしてグローバルな VLAN を追加するには、この手順を省略します。
ステップ 3	UCS-A /eth-uplink/fabric # <b>create vlan</b> VLAN 名 VLAN ID	ネームド VLAN を作成し、VLAN 名と VLANID を指定し、アップリンク VLAN モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /eth-uplink/fabric/vlan # <b>create mon-src session-name</b>	指定されたモニタリングセッションのソースとして VLAN を追加します。
ステップ 5	UCS-A /eth-uplink/fabric/vlan/mon-src # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例は、イーサネット モニタリング セッションのソースとしてローカル VLAN を追加し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-uplink
UCS-A /eth-uplink # scope fabric a
UCS-A /eth-uplink/fabric # create vlan vlan23 23
UCS-A /eth-uplink/fabric/vlan # create mon-src Monitor23
UCS-A /eth-uplink/fabric/vlan/mon-src* # commit-buffer
UCS-A /eth-uplink/fabric/vlan/mon-src #
```

### 次のタスク

トラフィック モニタリング セッションにはさらにソースを追加できます。

## モニタリングセッションへのストレージポート送信元の追加



- (注) この手順では、ファイバチャネルトラフィックのモニタリングセッションのソースとしてファイバチャネルストレージポートを追加する方法について説明します。イーサネットトラフィックモニタリングセッションのソースとしてFCoEストレージポートを追加するには、ステップ3で **create interface fc** コマンドの代わりに **create interface fcoe** コマンドを入力します。

### 始める前に

トラフィック モニタリング セッションが作成されている必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope fc-storage</b>	ファイバチャネルストレージポートのコマンドモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fc-storage # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定したファブリックのファイバチャネルストレージポートファブリックモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /fc-storage/fabric # <b>create interface fc slot-num</b> ポート番号	ファイバチャネルストレージポートインターフェイスを作成し、インターフェイスコマンドモードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /fc-storage/fabric/fc # <b>create mon-src</b> セッション名	指定されたモニタリングセッションのソースとしてストレージポートを追加します。
ステップ 5	UCS-A /fc-storage/fabric/fc/mon-src # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例は、ファイバチャネル モニタリング セッションのソースとしてスロット 2 のポート 3 にあるファイバチャネルストレージポートを追加し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fc-storage
UCS-A /fc-storage # scope fabric a
UCS-A /fc-storage/fabric # create interface fc 2 3
UCS-A /fc-storage/fabric/fc* # create mon-src Monitor23
UCS-A /fc-storage/fabric/fc/mon-src* # commit-buffer
UCS-A /fc-storage/fabric/fc/mon-src #
```

## 次のタスク

トラフィック モニタリング セッションにはさらにソースを追加できます。

## トラフィック モニタリング セッションのアクティブ化



(注) この手順では、イーサネット トラフィックのモニタリングセッションをアクティブ化する方法について説明します。ファイバチャネルトラフィックのモニタリングセッションをアクティブにするには、次の変更が必要になります。

- ステップ 1 で、**scope fc-traffic-mon** コマンドを **scope eth-traffic-mon** コマンドの代わりに入力します。
- ステップ 3 で、**scope fc-mon-session** コマンドを **scope eth-mon-session** コマンドの代わりに入力します。

## 始める前に

トラフィック モニタリング セッションを設定する。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope eth-traffic-mon</b>	イーサネット トラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-traffic-mon # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定したファブリックのトラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # <b>scope eth-mon-session session-name</b>	指定した名前のトラフィック モニタリング セッションのコマンド モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session # <b>disable   enable</b>	トラフィックのモニタリング セッションをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 5	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

アクティブ化すると、トラフィック モニタリング セッションは、トラフィックの送信元が設定されると宛先へのトラフィックの転送を開始します。

### 例

次の例では、イーサネットトラフィックモニタリングセッションをアクティブにし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope eth-traffic-mon
UCS-A /eth-traffic-mon # scope fabric a
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # scope eth-mon-session Monitor33
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session # enable
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session* # commit-buffer
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session # show
```

```
Ether Traffic Monitoring Session:
  Name      Admin State      Oper State      Oper State Reason
  -----
  Monitor33 Enabled              Up              Active
```

```
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric/eth-mon-session #
```

## トラフィック モニタリング セッションの削除



(注) この手順では、イーサネットトラフィックのモニタリングセッションを削除する方法について説明します。ファイバチャネルトラフィックのモニタリングセッションを削除するには、次の変更が必要です。

- ステップ 1 で、**scope fc-traffic-mon** コマンドを **scope eth-traffic-mon** コマンドの代わりに入力します。
- ステップ 3 で、**delete fc-mon-session** コマンドを **delete eth-mon-session** コマンドの代わりに入力します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope eth-traffic-mon</b>	イーサネット トラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /eth-traffic-mon # <b>scope fabric {a   b}</b>	指定したファブリックのトラフィック モニタリング コマンド モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # <b>delete eth-mon-session session-name</b>	指定した名前のトラフィック モニタリング セッションを削除します。
ステップ 4	UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、イーサネット トラフィックのモニタリングセッションを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope eth-traffic-mon
UCS-A /eth-traffic-mon # scope fabric a
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric # delete eth-mon-session Monitor33
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric* # commit-buffer
UCS-A /eth-traffic-mon/fabric #
```

## Cisco UCS Mini の SPAN に関する制約事項

SPAN 機能を設定する際は、次のガイドラインおよび制約事項を考慮してください。 Cisco UCS Mini

- FC ポートは SPAN 宛先としてはサポートされていません。
- VSAN は SPAN 送信元としてはサポートされません。
- FC アップリンク ポートは SPAN 送信元としてはサポートされません。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。